

御正忌報恩講ご案内

令和七年が終わり。悲惨な婆婆に身を置きながらも、お念佛に促されて、新しい年が始まります。思えば、娑婆に生息する私たちは、多くのものとサービスに囲まれ、多様な生き方を享受しつつも、その豊かさが実感できません。批判や言いい訳は得意ですが、己を支えている人やものの言存在に気付くことは希です。

生きていくために多くの知識と見解をもちながら、肝心の己が何ものであるかを知りません。目が先の損得には敏感ですが、事の真偽には疎いようです。

過剰な人生観「如何に生きるか」はあつても、たつた一つの死生観「如何に死ぬか」をもてないのは悲惨です。喜びや悲しみをかかえても、それを持ち者と共有することができない空しさ。

こんな閉塞社会で、人はとまどい、孤立し、不安を抱き、最後の一息まで右往左往して骨になつていきます。

人と自然が対立し、己と他者とが分断され、生きることと死ぬことが乖離したことと死ぬこと死出離の一大事を親鸞聖人の生き方から学ぶことは何よりも大切なことです。

年頭より、親鸞聖人の報恩講を厳修いたします。とりわけ十五日（木曜）・午後2時の報恩講式の「私記文・嘆徳文」の拝読を頂き、聖人の婆婆での生き様を聴聞されます様ご案内申し上げます。

御正忌報恩講行事日程

13 日	往生礼讃	PM PM	一時	お説教
14 日	日中勤行	PM PM AM AM	七時半	引き続き法話
	お説教	PM PM	十時	引き続き説教
	逮夜勤行	二時		
15 日	往生礼讃	PM PM	一時	引き続き説教
	日中勤行	AM AM	七時半	引き続き法話
16 日	初夜勤行	PM PM	一時	お説教
	親鸞物語	六時		
	お説教	PM PM	七時	引き続き説教
	布教使應行寺	十時		
	門徒勤行	AM AM	七時半	引き続き説教
	真宗文化講座	七時		
	荻野至師			

布教使應行寺 荻野至師
本徳寺

姫路市龜山三二四
079-235-0242